

電気を大切に使う ～電気と私たちの暮らし～

学習指導者 たけもり だいすけ
竹森 大介

学んだことが生活とつながり、電気を大切にしたいという思いが高まる単元構成にしました。電気を作る大変さや効率的な器具について学んだ子供たちは、さらに節電したいという思いからプログラミングに取り組んできました。

本時は、「どうプログラミングすれば電気を効率的に使えるだろう」という学習課題の解決に向けて、他の班と自由に交流できる「色々うろうろタイム」を設定しました。子供たちは、その時間を生かし、粘り強くプログラムを作り替えました。また、日常生活を想定して、センサーの組み合わせやセンサーの値を考えることの大切さに気付きました。プログラミングした器具が使える時間を計り、元の時間より長いことから、プログラミングやセンサーを工夫すると、電気を効率的に使えることを捉えていきました。



人感センサーと温度センサーを組み合わせるとより効率的になりそうだよ。

考察

○他のグループを見に行くことで、よい考えを取り入れて、自分の班のプログラミングを修正できていた。何度も試し、時間を計り直す様子も見られた。

●もっと具体的な場面を想定させておいた方がよかった。例えば玄関の照明、トイレの照明など、具体的な想定があることで、もっとセンサーの組み合わせや秒数の設定に必要感がもてたのではないか。